第十八講　文学論　カルチュラル・スタディーズ

文学の研究では、この三十年ほどの間に、ほとんどすべての点について問題が発生し、新しい考え方が提唱されてきた。その中でも今大きな問題になっているのが、文学と文化の関係のあり方である。文学そのものが文化の重要な部分であることは疑い得ないとして、その文学が文化のどの部分に位置し、互いにどのように規定し規定される関係にあるのか、それが問題にされているということである。[A]その二つを敵対関係におこうとする議論もいたるところで見かける。例えばハロルド・ブルームの『西欧のカノン』には次のような極論が登場する。

> 今英文科と呼ばれているものはカルチュラル・スタディーズ科[注1]と改称され、そこでは漫画のバットマンやモルモンのテーマパークやテレビや映画やロックが、チョーサーやシェイクスピアやミルトンやワーズワスやウォレス・スティーヴンズにとって替ることだろう。

このような極論を誘発する状況があるのは事実だとしても、今の時代に西欧の古き良き伝統に固執してみせるその調子からは、その伝統を足場として権威と名声を築きあげてきた学者の怨念めいたものが洩れてくるだけの話である。彼にとっての文化とは何よりもまずエリート階級の教養としてのそれなのだ。

　しかし将来につながる可能性をもっているのは、むしろそれとは対照的に、対抗文化[注2]の世代に属するジェイムズ・クリフォードの文化のとらえ方の方であろう。この人類学者は、バフチンの思想を引用しながら、その文化概念を展開する。さまざまの全体性を非物質的なものとして表象することに意を用いていたバフチンにとって、統合された文化世界や言語は存在しない。そのような抽象的な統一体を措定しようとするあらゆる試みは、モノローグ的権力の構築物なのだ。ひとつの「文化」とは、具体的には複数の下位文化、部内者、部外者、多様なグループなどの制限のない創造的な対話である。また、ひとつの「言語」とは、地方語、職業用語、一般的な決まり文句の相互作用や闘争であり、異なった年齢グループ、個人等々の発話である。バフチンに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とって、多声的小説とは、文化的あるいは歴史的な全体化による力業ではなく、むしろ多様性のカーニヴァル的闘技場だ。バフチンは談話的複合性、ないしは複数の声の対話的相互作用に適した、あるユートピア的なテクスト空間を発見する。文化をさまざまの階級、人種、ジェンダー、セクシュアリティ、土地、宗教、年齢などによって差異化している価値観の複合体とする見方に、私も賛成する。しかもその複合体を構成する各部分は併存しながらも、絶えず大小強弱の対立を起こしているはずである。そこでは、全体が均質化して安定状態に達するなどということは考えられない。

　イギリス産のカルチュラル・スタディーズの中でほぼ公認されている文化のとらえ方は、このような文化概念にこそ接ぎ木すべきものであるだろう。例えばレイモンド・ウィリアムズの有名な規定によれば、

> 文化とは、ひとり芸術や学問のみならず、さまざまの制度や日常の行動を通しても、何らかの意味や価値観を表現することになる<u>特定の生活のあり方を描き出す</u>[B]ものなのである。この規定から出発すると、文化を分析するとは特定の生活のあり方、特定の「文化」の内にひそむ、そこに見てとれる諸々の意味と価値観を明らかにするということである。

ということになる。ここで言われている「特定の生活のあり方」は特定の階級や民族や国家に限定されるものではあり得ない。特定の文化にしても、教養のあるエリートのみに限定されるものではないし、逆に民衆文化と同一視されるものでもない。純粋な民衆文化など存在しないし、エリート文化なるものが質の高いエッセンスのみからなるなどと考えるのは茶番にすぎない。

注１　カルチュラル・スタディーズ……今まで研究の対象とされていなかったいわゆる大衆文化をも視野にいれ、従来の文化概念を問い直しつつ発達した人文・社会科学分野における新しい研究方法。

注２　対抗文化……一九六〇年代にアメリカを中心に起こった反体制的・反主流の政治文化。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問１　傍線部Ａに見られるように、筆者は文学と文化を「敵対関係」にとらえている例としてハロルド・ブルームの論を挙げている。筆者はブルームに対してどのような考えを持っているか。もっとも適当なものを次の中から選べ。

①　文化をエリートの教養に限定するブルームに対して、筆者はむしろ民衆文化こそ文化だと考えている。
②　カルチュラル・スタディーズが対象にしているような民衆文化を文化概念に含めないブルームに対して、筆者はブルームが古い学問的伝統に固執していると考えている。
③　カルチュラル・スタディーズが英文科にとってかわると主張するブルームに対して、筆者はそのような状況にはならないだろうと考えている。
④　カルチュラル・スタディーズが英文科にとってかわると主張するブルームに対して、筆者は極論ではあるがおおむね正しいと考えている。

問２　バフチンの思想を介してクリフォードが考える文化の説明として、もっとも適当なものを次の中から選べ。

①　文化は上位文化と下位文化で構成され、上位文化はモノローグ的権力によって下位文化を支配する。
②　文化は固定的なエリート階級の文化と確固とした民衆文化で構成され、完全に二分化される。
③　文化は多様性を持つ複数のグループで構成され、それらがぶつかり合いながら作られる。
④　文化は複数の多様なグループが、お互いに協調し合うことによって創造される。

問３　傍線部Ｂ「特定の生活のあり方」の説明として、もっとも適当なものを次の中から選べ。

①　特定の階級や民族や国家の制約を常にうけているという生活のあり方。
②　特定の意味や価値観が日常の行動にも現れてくるという生活のあり方。
③　特定の社会制度に制約を常に受けているという生活のあり方。
④　特定の意味や価値観が芸術や学問に現れてくるという生活のあり方。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４　本文の主旨に合致するもっとも適当なものを次の中から選べ。

① 文化の分析とは、エリート階級の教養を対象とし、その社会の人々の行動や生活の奥にある意味や価値観を分析することである。

② 文化の分析とは、一般の人々の日常を対象とし、彼らの価値観を明らかにすることである。

③ 文化の分析とは、多数の国々の文化を比較検討し、その文化固有の価値観を分析することである。

④ 文化の分析とは、具体的な対象が問題なのではなく、人々の行動や生活の奥にある意味や価値観を明らかにすることである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●富山太佳夫＝とみやま　たかお（一九四七〜）→今回の文章（『文化と精読　新しい文学入門』）の執筆者で英米文学の研究者

語句

ジェンダー→社会的性差・生物学的な性差を意味するセクシュアリティやセックスと異なり、歴史的社会的に形成された男女の差

ユートピア→トマス・モアの作品に基づく理想郷　ギリシャ語では「どこにもない場所」を意味する

類義語　楽園・別天地・桃源郷（とうげんきょう　俗世を離れた平和な世界・陶淵明（とうえんめい）が描いた）

アルカディア（ギリシャ語・牧歌的な楽園）

蓬莱（ほうらい　中国の伝説で描かれる仙人が住む不老不死の地）

対義語　ディストピア→ＳＦで描かれるような反理想郷・暗黒の未来

措定＝そてい→当然の前提とみなすこと

茶番＝ちゃばん→ばかばかしい振る舞い。本来は、その場にあるもので笑いをとる即興寸劇、「茶番狂言」の略。「モノぼけ」といったところ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十八講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）マンガを読みふける　①慢　②饅　③漫　④満　⑤萬

（イ）古き伝統にコシツする　①嫉　②質　③叱　④失　⑤執

（ウ）ケンイある学者　①威　②意　③畏　④居　⑤維

（エ）学者のオンネンにすぎない　①恩　②怨　③穏　④御　⑤遠

（オ）学識経験者のキョウヨウ　①用　②要　③庸　④様　⑤養

（カ）ある学説をインヨウする　①洋　②用　③揺　④拗　⑤揚

（キ）彼とはタイショウ的な考え　①称　②象　③照　④賞　⑤正

（ク）ある前提をソテイした発想　①措　②祖　③租　④素　⑤楚

（ケ）様々な価値観のフクゴウ体　①副　②復　③福　④複　⑤腹

（コ）学問的な言葉でキテイする　①基　②規　③帰　④機　⑤着

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　文学論　カルチュラル・スタディーズ

《本文の対比構造》

主役

筆者の見解＝カルチュラル・スタディーズ＝文化研究をエリート文化のみに限定せず、民衆文化も視野に入れる・文化の多様性複合性を重視＝**ジェイムズ・クリフォード／ミハイル・バフチン／レイモンド・ウィリアムズ**

主な対比

敵役

伝統的文学論・文化論／ハロルド・ブルーム＝エリートの教養重視

小さな対比

脇役

民衆文化、大衆文化限定

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部説明・選択肢》

筆者とブルームは対比関係で、筆者は、「エリート階級の教養」と「権威と名声」に固執しつづけるブルームに批判的です。したがって、②が正解。①は「民衆文化こそ」が対比混乱の誤りです。エリート限定も民衆限定もともにダメです。③は「状況（文学の改変状況）にはならない」が×です。本文によれば「状況があるのは事実」です。記述に反する誤りです。④では、筆者がブルームと同じ仲間になってしまいます。対比混乱の誤りですね。

問２《内容理解・選択肢》

バフチンもクリフォードも筆者の仲間で、カルチュラル・スタディーズグループです。①はエリート側・上位文化・支配文化側を答えてしまった対比混乱の誤りです。②は「二分化」が×です。混じり合いの「闘技場」、対立の「複合」がキーワードですからね。したがって③が正解で、④は「協調」が記述に反する誤りです。和気藹々（わきあいあい）ではなく、むしろ多様なものが火花を散らす、スパークするような異者との対話関係から文化活力が生み出されるのです。

問３《傍線部説明・選択肢》

「特定の生活のあり方」とは、たとえば日本の生活文化という「特定の」ものであっても、さまざまな意味や価値観（さまざまな地方文化の混ざり合いや階級や男女文化などもろもろ多数）を含みこんでいるということです。そうしたもろもろ多数のうちのひとつに「制約（縛られ限定されるということ）」されるとしている①や③は、記述に反します。あるいは部分的指摘の誤りと呼んでもいいでしょう。④の「芸術や学問」ではエリート側になってしまいますね。対比混乱の誤りです。

問４《主題理解・選択肢》

①はエリート重視、②は民衆文化重視で、それぞれ対比混乱の誤りです。今回は部分的指摘の誤りと呼んでもＯＫです。③は国別比較の話になってしまっています。つまり正しい対比喪失です。④が正解。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

問1＝②

問2＝③

問3＝②

問4＝④

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十八講

（ア）③　（イ）⑤　（ウ）①　（エ）②　（オ）⑤
（カ）②　（キ）③　（ク）①　（ケ）④　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）漫画　（イ）固執　（ウ）権威　（エ）怨念　（オ）教養
（カ）引用　（キ）対照　（ク）措定　（ケ）複合　（コ）規定

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。